

5 分数のかけ算 ①

答え

1 ① $\frac{27}{4}$ ($=6\frac{3}{4}$) ② $\frac{4}{21}$
 ③ $\frac{1}{10}$ ④ $\frac{20}{3}$ ($=6\frac{2}{3}$)
 ⑤ $\frac{9}{7}$ ($=1\frac{2}{7}$) ⑥ $\frac{56}{5}$ ($=11\frac{1}{5}$)

2 ① $>$ ② $<$ ③ $>$ ④ $<$

3 ① 192 円 ② $\frac{35}{4}$ ($=8\frac{3}{4}$) kg

考え方

1 ① (分数) × (整数) の計算では、分母はそのままにして分子に整数をかけます。

$$\frac{3}{4} \times 9 = \frac{3 \times 9}{4} = \frac{27}{4}$$

2, ③ (分数) × (分数) の計算では、分母どうし、分子どうしをそれぞれかけます。

$$\frac{4}{9} \times \frac{3}{7} = \frac{4 \times \cancel{3}}{\cancel{9} \times 7} = \frac{4}{21}$$

$$\frac{3}{8} \times \frac{4}{15} = \frac{\cancel{3} \times \cancel{4}}{\cancel{8} \times \cancel{15}} = \frac{1}{10}$$

4 12 を $\frac{12}{1}$ になおして計算します。

$$12 \times \frac{5}{9} = \frac{12}{1} \times \frac{5}{9} = \frac{\cancel{12} \times 5}{1 \times \cancel{9}} = \frac{20}{3}$$

5, ⑥ 帯分数の混じった計算では、帯分数を仮分数になおして計算します。

$$\frac{3}{4} \times 1\frac{5}{7} = \frac{3}{4} \times \frac{12}{7} = \frac{3 \times \cancel{12}}{\cancel{4} \times 7} = \frac{9}{7}$$

$$2\frac{2}{3} \times 4\frac{1}{5} = \frac{8}{3} \times \frac{21}{5} = \frac{8 \times \cancel{21}}{\cancel{3} \times 5} = \frac{56}{5}$$

2 積とかけられる数の大きさの関係は、次のようになります。

・ かける数が 1 より大きいとき

→ 積は、かけられる数より大きくなる。

・ かける数が 1 のとき

→ 積は、かけられる数と等しい。

・ かける数が 1 より小さいとき

→ 積は、かけられる数より小さくなる。

この関係に注目して、積とかけられる数の大小を調べましょう。

1 1.09 > 1 だから、

$$\frac{7}{8} \times 1.09 > \frac{7}{8}$$

2 $\frac{6}{7} < 1$ だから、 $\frac{7}{8} \times \frac{6}{7} < \frac{7}{8}$

3 $1\frac{1}{6} > 1$ だから、 $\frac{7}{8} \times 1\frac{1}{6} > \frac{7}{8}$

4 $\frac{7}{8} < 1$ だから、 $\frac{7}{8} \times \frac{7}{8} < \frac{7}{8}$

3 ① リボンの代金は、

1m あたりの ねだん 値段 × 長さ

で求められます。

$$120 \times 1\frac{3}{5} = \frac{120}{1} \times \frac{8}{5}$$

$$= \frac{\cancel{120} \times 8}{1 \times \cancel{5}} = 192 \text{ (円)}$$

2 この鉄の棒の重さは、

1m あたりの重さ × 長さ

で求められます。

$$3\frac{3}{4} \times 2\frac{1}{3} = \frac{15}{4} \times \frac{7}{3}$$

$$= \frac{\cancel{15} \times 7}{4 \times \cancel{3}} = \frac{35}{4} \text{ (kg)}$$

14 角柱と円柱の体積 ①

答え

- 1 ① 105cm^3 ② 240m^3
 ③ 11.2cm^3 ④ 850.5cm^3
 2 ① 254.34cm^3 ② 6280cm^3
 3 2640cm^3

考え方

1 角柱の体積は、**底面積×高さ**で求めることができます。

① 底面積が、 $3 \times 5 = 15 (\text{cm}^2)$ だから、求める体積は、

$$15 \times 7 = 105 (\text{cm}^3)$$

② 底面積が、

$$5 \times 12 \div 2 = 30 (\text{m}^2)$$

だから、求める体積は、

$$30 \times 8 = 240 (\text{m}^3)$$

③ 底面は、上底 3cm 、下底 2cm 、高さ 1.6cm の台形なので、底面積は、

$$(3 + 2) \times 1.6 \div 2 = 4 (\text{cm}^2)$$

したがって、求める体積は、

$$4 \times 2.8 = 11.2 (\text{cm}^3)$$

④ 底面は 2 本の対角線の長さが 6cm 、 13.5cm のひし形なので、底面積は、

$$6 \times 13.5 \div 2 = 40.5 (\text{cm}^2)$$

したがって、求める体積は、

$$40.5 \times 21 = 850.5 (\text{cm}^3)$$

2 円柱の体積は、角柱の体積と同じように、**底面積×高さ**で求めることができます。

① 底面の円の半径は、

$$6 \div 2 = 3 (\text{cm})$$

だから、面積は、

$$3 \times 3 \times 3.14 = 28.26 (\text{cm}^2)$$

したがって、求める体積は、

$$28.26 \times 9 = 254.34 (\text{cm}^3)$$

② 底面は半径 10cm の円の半分なので、その面積は、

$$10 \times 10 \times 3.14 \div 2 = 157 (\text{cm}^2)$$

したがって、求める体積は、

$$157 \times 40 = 6280 (\text{cm}^3)$$

③ 底面が五角形、高さが 12cm の五角柱とみることがができます。

右のように、底面を台形と長方形に分けて考えます。台形の面積は、

$$(5 + 15) \times (18 - 8) \div 2 = 100 (\text{cm}^2)$$

長方形の面積は、

$$8 \times 15 = 120 (\text{cm}^2)$$

だから、底面積は、

$$100 + 120 = 220 (\text{cm}^2)$$

したがって、この五角柱の体積は、

$$220 \times 12 = 2640 (\text{cm}^3)$$

(別解)

右の図のように、長方形の面積から三角形の面積をひいて、底面積を求めることもできます。長方形の面積は、

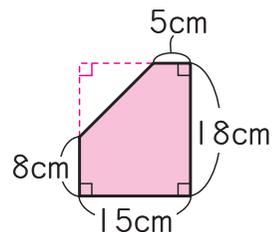
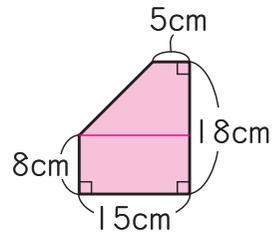
$$18 \times 15 = 270 (\text{cm}^2)$$

三角形の面積は、

$$(15 - 5) \times (18 - 8) \div 2 = 50 (\text{cm}^2)$$

だから、底面積は、

$$270 - 50 = 220 (\text{cm}^2)$$

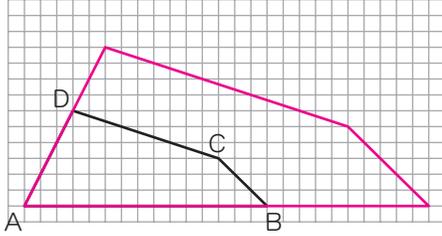


18 図形の拡大と縮小

答え

1 ① ⊕, $\frac{3}{2}$ ② ⊕, $\frac{1}{2}$

2

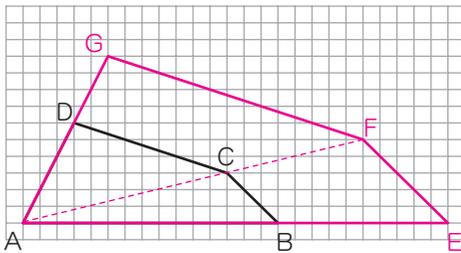


3 ① 92° ② $\frac{28}{5}$ ($=5\frac{3}{5}$) cm

考え方

1 ①, ② ⊕の三角形は, ⊗の三角形の辺の長さをすべて $\frac{3}{2}$ 倍にしたものです。また, ⊕の三角形は, ⊗の三角形の辺の長さをすべて $\frac{1}{2}$ 倍にしたものです。

2 下の図のように, 点Bに対応する点をE, 点Cに対応する点をF, 点Dに対応する点をGとします。



方眼の数を $\frac{5}{3}$ 倍にします。

点Bは, 点Aから右に15動かしたところにあるので, 点Eは, 点Aから右に, $15 \times \frac{5}{3} = 25$ 動かしたところにあります。

点Cは, 点Aから右に12, 上に3動かしたところにあるので, 点Fは, 点Aから,

$$\text{右に, } 12 \times \frac{5}{3} = 20$$

$$\text{上に, } 3 \times \frac{5}{3} = 5$$

動かしたところにあります。

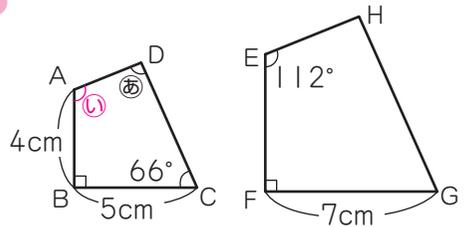
点Dは, 点Aから右に3, 上に6動かしたところにあるので, 点Gは, 点Aから,

$$\text{右に, } 3 \times \frac{5}{3} = 5$$

$$\text{上に, } 6 \times \frac{5}{3} = 10$$

動かしたところにあります。

3 ①



点Aと点Eが対応しているので, 上の図の角Ⓐの大きさは 112° です。したがって, 角Ⓒの大きさは,

$$360^\circ - (112^\circ + 90^\circ + 66^\circ) = 92^\circ$$

② 辺FGの長さは, 辺BCの長さの, $7 \div 5 = \frac{7}{5}$ (倍) なので, 辺EFの長さは,

$$4 \times \frac{7}{5} = \frac{28}{5} \text{ (cm)}$$

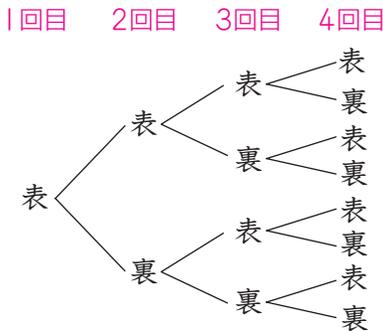
22 並べ方

答え

- 1 16通り
 2 ① 24通り ② 4通り
 3 ① 6通り ② 6通り

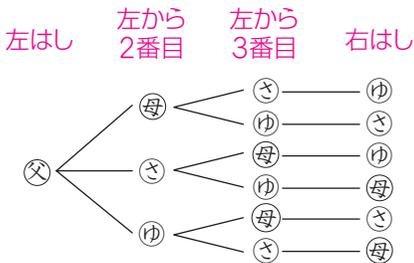
考え方

- 1 | 1回目に表が出たときを^{じゅけいず}樹形図にかくと、下の図のように8通りになります。



1回目に裏が出たときも同じように8通りになるので、全部で、
 $8 + 8 = 16$ (通り)

- 2 ① 左はしをお父さんとしたときの並び方を樹形図にかくと、下の図のように6通りになります。



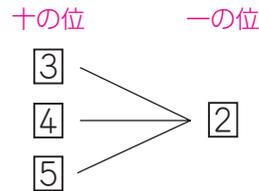
左はしをお母さん、さやかさん、ゆうたさんとしたときも同じように6通りなので、全部で、
 $6 \times 4 = 24$ (通り)

- 2 左はしをお父さん、右はしをお母さんとしたときの並び方を樹形図にかくと、下の図のように2通りになります。



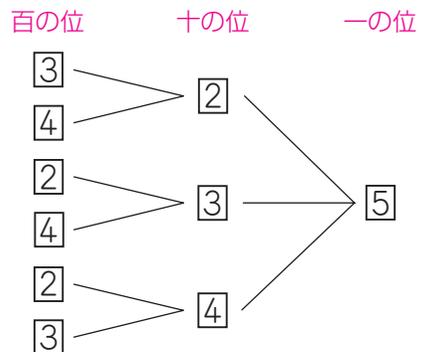
左はしをお母さん、右はしをお父さんとしたときも同じように2通りなので、全部で、 $2 + 2 = 4$ (通り)

- 3 ① 一の位が偶数であれば、その整数は偶数になります。一の位を2としたときの2けたの整数を樹形図にかくと、下の図のように3通りになります。



一の位を4としたときも同じように3通りなので、全部で、
 $3 + 3 = 6$ (通り)

- 2 一の位が「0」または「5」であれば、その整数は5の倍数になります。一の位を5としたときの3けたの整数を樹形図にかくと、下の図のように6通りになります。



4 | 面積の比 ①

答え

1 ① ① 2 : 3 ② 7 : 3 2 a : b

2 7cm²

3 ① 40cm² ② 98cm²

考え方

1 ① ① 三角形 ABD の面積は、
 $2 \times 4 \div 2 = 4$ (cm²)
 三角形 ACD の面積は、
 $3 \times 4 \div 2 = 6$ (cm²)
 したがって、面積の比を最も簡単な整数の比で表すと、 $4 : 6 = 2 : 3$

② 三角形 ABD の面積は、
 $8 \times 7 \div 2 = 28$ (cm²)
 三角形 ACD の面積は、
 $8 \times 3 \div 2 = 12$ (cm²)
 したがって、面積の比を最も簡単な整数の比で表すと、 $28 : 12 = 7 : 3$

2 ① ① で求めた面積の比をヒントにして考えます。

2 AE : ED
 = 2 : 1

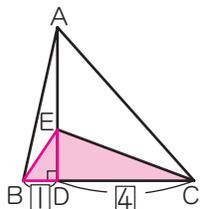
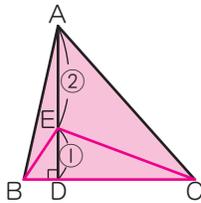
だから、三角形 ABC の面積と三角形 BCE の面積の比を求めると、 $(2 + 1) : 1 = 3 : 1$ です。したがって、三角形 BCE の面積は、

$$105 \times \frac{1}{3} = 35 \text{ (cm}^2\text{)}$$

また、

BD : DC
 = 1 : 4

だから、三角形 BDE と三角形 BCE の面積の比は、 $1 : (1 + 4) = 1 : 5$ です。した



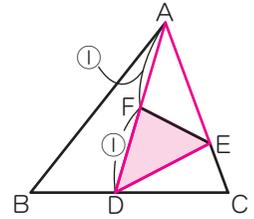
がって、三角形 BDE の面積は、

$$35 \times \frac{1}{5} = 7 \text{ (cm}^2\text{)}$$

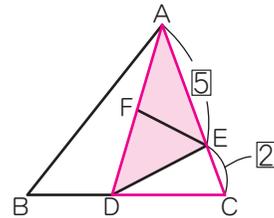
3 ① AF : FD
 = 1 : 1

だから、三角形 DEF と三角形 ADE の面積の比は、
 $1 : (1 + 1) = 1 : 2$ です。したがって、三角形 ADE の面積は、

$$20 \times \frac{2}{1} = 40 \text{ (cm}^2\text{)}$$



2



$CE : EA = 2 : 5$ だから、三角形 ADE と三角形 ADC の面積の比は、
 $5 : (2 + 5) = 5 : 7$ です。したがって、三角形 ADC の面積は、

$$40 \times \frac{7}{5} = 56 \text{ (cm}^2\text{)}$$

また、

BD : DC
 = 3 : 4

だから、三角形 ADC と三角形 ABC の面積の比は、 $4 : (3 + 4) = 4 : 7$ です。したがって、三角形 ABC の面積は、

$$56 \times \frac{7}{4} = 98 \text{ (cm}^2\text{)}$$

